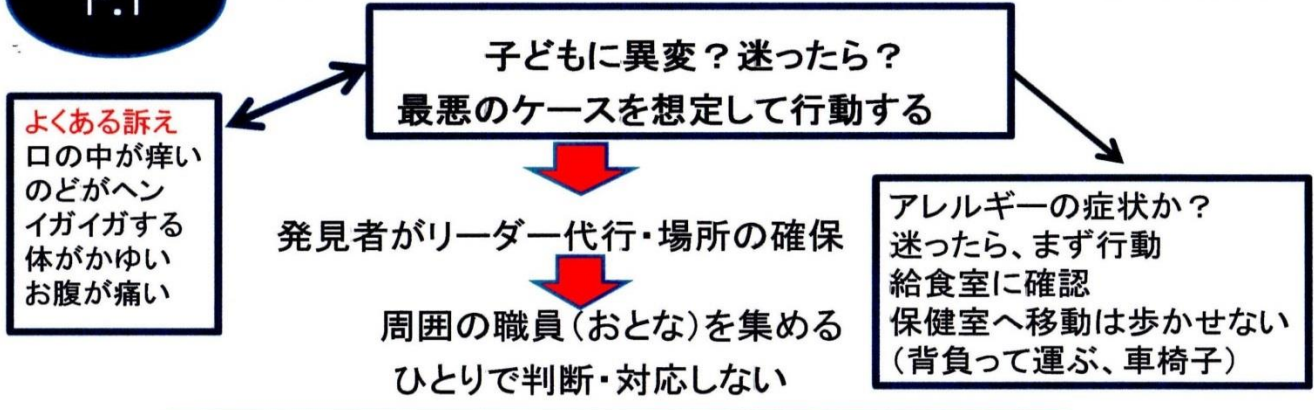


# 緊急時対応マニュアル 対応の流れと役割分担



3人以上で対応  
1) 観察・処置係、2) 指示・記録係、3) 連絡係

観察・処置係(養護教諭): 対応マニュアル・処置用薬剤を保管し緊急時に持参  
子どもに寄り添って声かけ、症状の推移を観察。  
緊急性の判断、処置の必要性の判断

指示・記録係(校長・教頭): 現場のリーダーとなる。  
観察係と相談しながら処置の緊急性および必要性の判断  
症状の経過、いつどのような処置を行ったかマニュアルに記録

連絡係(担任教諭): 周囲の職員を集める。  
保護者、医療機関、救急隊への連絡  
周囲の子ども達への配慮。救急隊の出迎えと現場への案内

緊急時の薬剤の使用の目安は緊急時対応マニュアル P.2 参照  
保護者・医療機関の電話番号 P.3 参照

観察と判断 P.2

緊急性の高いアレルギー症状 P.2

YES

エピペン注射 P.4  
迷ったら使うほうが良い

症状の経過と処置の記録 P.2

症状が改善しても  
再度悪化の危険

心肺停止に陥ったらAEDを使った蘇生処置

医療機関への搬送 P.3

事前のシミュレーションと救急隊、医療機関との連携

年 組 氏名:

全身の症状	<input type="checkbox"/> くったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈を触れにくい・不規則 <input type="checkbox"/> 顔面蒼白・唇・爪が青白い	食べてしまった時刻: 時 分頃 症状が出始めた時刻: 時 分頃 ← 緊急症状が出た時刻: 時 分頃	
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬がほえるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> がまんできない強い お腹痛み (背筋を伸ばせず丸くなる) <input type="checkbox"/> 繰り返し吐く	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み (顔がゆがむ) <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹痛み (がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気がする
目・口・鼻・顔面の症状	上記の症状がひとつでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目が充血する <input type="checkbox"/> 口中の違和感・唇が腫れる <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状		<input type="checkbox"/> 強い痒み <input type="checkbox"/> 全身のじんましん <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんましん <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		<input type="checkbox"/> 1つでもあてはまる	<input type="checkbox"/> 1つでもあてはまる

1. その場で仰臥位下肢拳上  
仰向けに寝かせ、  
足先を20cm高く
2. 救急車を呼ぶ
3. エピペン使用

P4

- 保健室に運ぶ  
(歩かせない)  
飲み薬・吸入薬使用  
エピペン準備  
医療機関へ連絡  
(救急車考慮)

- 保健室で経過観察  
飲み薬(頓服)使用  
保護者に連絡

分類	薬剤名	使うべき症状	使い方	使用した時刻
抗ヒスタミン薬		蕁麻疹、かゆみ	内服	時 分
気管支拡張薬		咳・ゼイゼイ	内服・吸入	時 分
その他				

エピペン:保管場所( ) :使用した時刻( 時 分)

エピペンをうつべきか? 迷ったら、うつ!

## 関係諸機関との連絡・連携

### 給食室・保護者・医療機関・救急隊

年 組 氏名: \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日( 歳)

原因アレルゲン: \_\_\_\_\_

#### 給食室との連携

何らかの症状出現⇒給食室に原因アレルゲンの使用・混入の有無を確認

調理段階で使用していなくても子どもどうしでの食物のやり取りの可能性

食物が関係したじんま疹? 食物が関係しないぜん息発作?

**迷ったら食物関連の症状として対応する**

#### 保護者との連絡

保護者1. ☎ \_\_\_\_\_ 携帯・自宅・職場 氏名 \_\_\_\_\_ 続柄( )

保護者2. ☎ \_\_\_\_\_ 携帯・自宅・職場 氏名 \_\_\_\_\_ 続柄( )

保護者に連絡がつかない場合は、かかりつけ主治医に連絡

#### 医療機関との連絡

主治医: 医療機関名: \_\_\_\_\_ 医師名: \_\_\_\_\_ ☎ \_\_\_\_\_

病 院: 医療機関名: \_\_\_\_\_ 医師名: \_\_\_\_\_ ☎ \_\_\_\_\_

### 救急車の要請 119番通報

#### ◎伝えること

- アナフィラキシーでの救急要請であること
- 園・学校名、電話番号、園・学校の住所
- 子どもの名前、年齢、性別
- 食べてしまったもの、現在の症状
- エピペンを持っているか、使用したか
- 通報者の名前・職種、携帯番号

生徒の様子を見ながら救急隊と常に連絡が取れるよう、自分の携帯番号を教え、すぐ受信できるようにしておく。

救急隊員を出迎える職員は校門前で待機する。

出迎え要員が確保できない場合は、子どもが園・学校内のどこにいるのか、具体的に伝えておく

(保健室? 教室の場合は○年○組の教室)

症状の経過や、園・学校でどのような処置を行ったのか、このマニュアルの記載欄 **P.2** **P.3** に記入して医療機関に提出してください

エピペンを使った場合は使用済みのエピペンを医療機関に渡してください

## 1) 携帯用ケースから取り出す

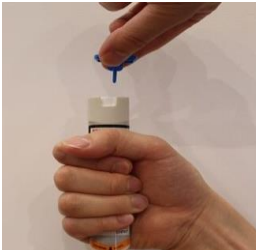


## 2) しっかり「グー」で握る



オレンジ色の針カバーを下に向け、効き手で持つ。  
グーで握る

## 3) 安全ピンを外す



青い安全ピンを外す

- ・エピペンは下がってしまった血圧をあげます
- ・咳込み、嘔れ声、喘鳴、喘息発作にも効きます
- ・効果の持続時間は15-20分です
- ・使用後に一時的に症状が軽くなっても必ず医療機関を受診してください
- ・使用を迷ったら、積極的に使ってください

## 4) 太ももに注射する



- ・ズボンの上からでも打つことができます
- ・「今から打つよ、我慢して」の声掛けをします
- ・介助者に足が動かないよう抑えてもらいます
- ・太ももの中央付近の少し外側に打ちます
- ・太ももの内側には太い血管や神経が走っています
- ・まず、注射する位置にエピペンの先端を軽くあてます
- ・カチッと音がするまで強く押しあてます
- ・カチッと音がしたら5つ数えます(5秒間)

## 5) 確認する



使用前

使用后

- ・オレンジ色の針カバーが伸びているか確認します、伸びていれば注射完了です
- ・伸びていなければ、3)、4)を繰り返しましょう
- ・使用後のエピペンは医療機関に返却しましょう

本マニュアル作成にあたって東京都アレルギー疾患対策検討委員会、および名古屋市教育委員会が作成した「緊急時個別対応マニュアル」を参考にさせていただきました。

食物アレルギーの基礎知識は、愛媛こどもの食物アレルギー対策委員会が作成した資料集「子どもの食物アレルギー(2013)―食物アレルギーの理解と対処の仕方―」に詳しく記載されています。その資料集は愛媛県小児科医会公式ホームページに公開されていますので参照してください。

[http://www.1ehime.med.or.jp/epa/allergy/allergy\\_file\\_2013.pdf](http://www.1ehime.med.or.jp/epa/allergy/allergy_file_2013.pdf)